



啓北中「6つの行動指針」 すべての教育活動を この考え方のもと推進していきます。

- 01 **学ぼう** (子どもも教師も学ぼう)
- 02 **育てよう** (未来を生き抜く子どもに必要な資質・能力を育てよう)
- 03 **楽しもう** (子どもも教師も楽しもう)
- 04 **聞こう** (意見や悩み事など、子どもの声に耳を傾けよう)
- 05 **寄り添おう** (相手の立場になって考えよう)
- 06 **つなごう** (子ども同士をつなぐとともに、地域に、社会につなげよう)

思いを届ける

「はい」という返事から、その人の思いがわかる

先日行われた認証式で感じたことです。私は、壇上から、学級役員などそれぞれの係に決まった人が呼名され、その生徒が「はい」と返事をする様子を見ていました。その返事の声は様々で、高い声、低い声、少しかすれ声の人、大きい声、小さい声の人など様々で、声にも個性があるなって思っていました。しかし、何よりも感じたことは、たった2文字の「はい」という返事にその人の思い（決意）が感じられたことです。大勢の人の前で返事をするのが恥ずかしい・・・と思っている人の返事には、その感情が現れますし、がんばるぞっていう気持ちが強い人の返事には、その思いが宿ります。また、返事には、場の空気感を変える力がある。何人もの生徒の「はい」という返事に、体育館は一瞬で凜とした空気感になりましたし、同時に私は嬉しい気持ちにもなりました。返事（あいさつ）には、思いを届け、相手の心を震わせる力がある！

気持ちや思いを相手に向ける、届ける（「思い」 + 「遣る」）

これは、「思いやり」です。返事やあいさつは、思いやりとも言えるのではないでしょうか。

学校には、保護者の皆様から、感謝、要望などたくさんの思いが届けられています。

学校のすべての教育活動は、子供の成長を願って行われています。その思いを私たち教員は言葉や表情、所作で表します。その思いが十分に子供に届いていないときに、誤解が生じ、子供と教員の信頼関係にひびが入ることもあります。こうした声をお子様からお聞きになったときには、学校にお伝えください。保護者の皆様の思いを届けてください。日々改善し、啓北は「一人一人を大切にする学校」を実現します。もちろん、この「一人一人」を意味するのは、生徒・保護者の皆様、地域の方、そして教職員、学校に関わる全ての者です。

その際に、一つだけお願ひがあります。

お子様のことで学校にご相談されるときには、教員に対する「思いやり」をもってお話しいただけないと大変うれしいです。教員の子供を思う気持ちが十分届かなかった場合に、お子様とともに保護者の皆様にも不満が募り、学校への連絡となると思いますので、お怒りの気持ちもあるかと思います。ただ、どのように対応したら今の状況が改善されていくのかを考えるのが「学校への相談」です。学校は、そうしたご相談に対して誠実に対応していくことをお約束いたします。学校と保護者の皆様で一緒にお子様を育てていく気持ちを大切にできたらと思っています。

学校に関わる全ての者にとって、安心・安全な学校をつくっていきましょう。

本年4月に、北海道カスタマーハラスメント防止条例が施行されました。学校のホームページにリーフレットを掲載していますので、お時間のある時にご覧ください。

